

今後の学級編制及び教職員定数の在り方に関する意見について

1. 氏名：(任意で御記入ください) 日本家庭科教育学会(会長 鶴田敦子)
 2. 性別(あてはまる を にしてください)： 男 ・ 女
 3. 年齢(あてはまる を にしてください)：
10代 20代 30代 40代 50代 60代以上
 4. ご回答者について(あてはまる を にしてください)：
保護者 児童・生徒 学校教職員 教育委員会関係者 その他
- 【ご意見】 1,000字以内におまとめいただけましたら幸いです。

確かな学力、豊かな人間性、健康・体力の3つを備えた「生きる力」、すなわち知・徳・体のバランスのとれた力は、子どもに「安定した生活」があって始めて可能になります。「生活する力」をこれまでの「生きる力」は見落とししていると思います。例えば、寒さから身体が守られ、お腹がある程度満たされていて、始めて全ての学習が可能になります。従って、知・徳・体・生活のバランスのとれた力が「生きる力」と思います。その生活の学びをするのが教科「家庭」です。また、ものをつくる活動は、5感を使い、人と交わりながら、手と頭と身体を使って取り組む総合活動であり、人間らしい成長の原点です。その学習が「技術・家庭」です。「家庭」「技術・家庭」は、今後、もっとも充実させていく必要のある教科のひとつと考えます。

「家庭」「技術・家庭」の授業を充実するための意見

1. 小学校の「家庭」に関して以下の教員配置を行うこと
 - 1) 専科教員の配置をおくこと
 - 2) 専科教員とクラス担任との協同で(T・T)授業を行うこと附 小学校の専科教員はその校区の中学校の専科教員が兼務することもある。
2. 各中学校・各高等学校には、「技術・家庭」「家庭」の専任教諭がない学校がないように、全ての学校に家庭科の専任教諭を配置すること
3. 中学校の「技術・家庭」について以下を提案します。
 - 1) 一クラスの人数を半数として、それに対応した教員配置をすること。
ものをつくるという「実習」が多くを占めるこの教科は、子どもの安全を確保するだけでなく、個別な具体的な指導が欠かせません。また、保育や高齢者などの地域にある福祉施設等へ出向いて学習する活動もあり、少人数でなくてはそれを充実させることが困難です。
 - 2) 技術と家庭科の教員配置が、どちらか1名となっているところを、技術と家庭科ともに1名配置すること。
 - 3) 各学校の「家庭」と「技術」の教員の割合が均等であるように配置すること
3. 高等学校(普通)について
 - 1) 一クラスの人数を半数として、それに対応した教員配置をすること
中学校と同様の理由
 - 2) 実習助手を配置すること